

丹沢：唐沢川 石尊沢

- ◆日程 2016年7月10日(日)
- ◆メンバー L：小林、須田(健)、牛込、佐藤(俊)、前田
- ◆天候 晴れ

前日の雨天から一転、湿度は高いが晴天登山となりました。本厚木駅より6時55分発の宮ヶ瀬行きに乗車、しばらくバスに揺られながら、初めての沢登りに楽しさと不安で少し緊張する。土山峠にて下車し入念にヒル対策を施して準備万端で登山開始。前日の雨が降りということもあり、恐れてはいたが山に入るとすぐにヒルを確認。今回はヒルとの戦いの予感。登りながらも時折ヒルチェック。辺室山、物見峠を經由して物見沢沿いの林道にてた後は、唐沢川から石尊沢に入ります。

この沢は初心者向きで、滝を登ることもなく歩きメインのルート。今回は腰の位置までしか水に入らなかったが、暑さも吹っ飛ば涼しげでマイナスイオンを浴びながら楽しめます。当初はGPSを見ながら位置を確認していたが、途中から皆に習ってGPSに頼らず、地図とコンパスを使ってのルートファインディングにしました。沢での地図読みは慣れない自分には大変難しく、まだまだ勉強が必要です。

登るにつれ少しずつ沢が枯れてきます。進むべきルートも定まらず、あえなく先頭を小林さんにバトンタッチ。付いていくのも必至なスピードで登っていきます。山頂直下の登山道にでるとチョット安心。オーバーヒート気味だった体に風が丁度良く冷やしてくれます。沢装備を外し、大山山頂を經由して蓑毛まで下山となりました。下山報告を終えた後は、秦野駅で乾いた喉に大人の水分補給をして無事解散です。

【追記】最終的なヒルダービーの結果は、須田5ヶ所、小林0ヶ所、佐藤1ヶ所、牛込1ヶ所、前田1ヶ所で、須田CLの圧倒的優勝で終わりました。

CT：土山峠 7:40－物見峠 9:20－小唐沢橋 10:02/10:40－昼食 11:55/12:20
 －ナメ 12:30－840m二俣 14:13－北尾根稜線 15:37/16:00－大山山頂 16:15
 －蓑毛 17:50

(記：前田)

<沢登りに参加して：牛込>

かねてより沢登りに興味はありましたが、危険であり知識・経験豊富な人しかできないという先入観があったので、まさかこの年齢になって自分が体験できるとは夢にも思いませんでした。沢登りとは沢に入り流れる川の上流に向かって景色を楽しみつつ滝を登って行くもの



で、ある程度の沢登りルートとして整っているものだと思い込んでいたので、現実とのギャップを体感できました。案内板も特になく、数多く枝沢がある中で、どちらに進んだらいいのかほとんどに解らなくなります。地図読みの必要性に加え、そのイメージを沢の現場でどう摺合せ、どう判断するかという事がとても大切であると身に染みて感じました。

沢は危険だし、難しいです。蛭は気持ち悪いです。しかし腰まで水に浸かり、流れ込む水に向かって滝を登り、滑滝の上を歩く経験は想像以上に楽しかったです。終わった後のビールも最高でした。

<沢登りに参加して：佐藤>

石尊沢に入る前、唐沢川で少し迷った。美しいナメ滝に出会い緊張が和らいだ。谷も明るく、足取りが軽くなりがむしゃらに前進した。数百メートル先の沢の分岐を見落とし、更に前進し突然、水流が消えた。ここで小林さんからストップが掛かる。石尊沢を通り過ぎたか？

地図で現在地を推測、少し戻ることにする。石尊沢分岐と思われる所で沢を確認する。しかし、沢幅が小さい、流れも少ないような感じだ。この沢に行くか、戻ってきた涸れ沢を進むか。引き返してきた涸れ沢を更に進むことにした。行き過ぎて南大山沢に入ってしまったら、登山道に出る事が出来そう。しばらく行くと、堰堤が見えてきた、ネクタイ尾根の取り付けだ。水流は無いがここからが石尊沢のようである。

もし、涸れ沢が前進困難になったら、また分岐点まで引き返したほうがいいと考え、間違いを大きくしない事(=命取りにならないようにする)を心がける重要性を感じました。



唐沢川中流域の美しいナメに嬉しくなる